



おぐに ひろふみ
小国 浩文 議員

高齢者世帯支援の 抜本の見直しを

従来の福祉政策と適切な拡充対応

舟形町の保健福祉サービス
(令和5年度版)

ひとり親編 P.9
子育て編 P.1~8
高齢者編 P.10~17
健康づくり編 P.27~30
障がい者編 P.18~26
主な相談機関一覧 P.31

家庭や地域で安心して暮らすための「在宅福祉サービス」の内容をご案内します。
令和5年4月作成

100歳元気プロジェクト事業
町では、町民のみなさんが100歳まで元気に暮らせるように、健康づくりや生活支援を行なっています。

舟形町 健康福祉課

福祉サービスの充実を

【質問】 町の高齢者率が年々上昇している状況の中、一人暮らしの高齢者の数が増加しているように感じられますが、町として一人暮らしの高齢者世帯数を把握しているのか伺います。

【町長】 まず初めに、町として一人暮らしの高齢者世帯数を把握しているのか、という質問でありますが、高齢者対策を行う上で必要な情報でありますので、当然のことながら把握しております。

高齢者全体の雪の対策も含め、支援のあり方を抜本的に見直す時期に来ているように感じられますが、町の考えを伺います。

小国議員の認識は「抜本的に見直す時期に来ている」との考えのようでありますが、その根拠を教示いただきたい。福祉政策は足し算であり、その社会情勢の下、各種施策を「福祉の町」宣言以来、何十年と展開してきています。これまで積み上げてきた福祉政策を継続しながら、状況に応じて、さらに拡充等の対応をしていく考えであります。

(単位：世帯)

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年/令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
65歳以上 ひとり暮らし世帯	141	132	145	148	170	173	168	172	185	199	211
75歳以上 ひとり暮らし世帯	96	66	95	93	100	102	98	102	106	119	121

過去11年間のひとり暮らし世帯の推移



さとう ひろふみ
佐藤 広幸 議員

ゼロカーボンシティ宣言の取り組みは

他市町村の動向を見ながら検討したい



積極的な森林整備を行いたい

【質問】 町は今年の2月にゼロカーボンシティ宣言を行いました。全国934の自治体がゼロカーボンシティ宣言を行っており、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにすることを表明しています。

近年の災害の多さは異常気象の影響によるものだと考えられる中、町がゼロカーボンシティ宣言を行ったことは重要な意味があると思われま。町の今後の方向性として、再生可能エネルギーの導入や電気自動車の導入、森林整備による吸収源対策等が書かれていますが、初めに取り組むべきは、町の二酸化炭素の排出量と森林等による二酸化炭素の吸収量がどのようなバランスの中にあるのか数値にしたうえで、町民の理解と普及を図っていくべきと考えます。

また、本町には約8,164haの森林があり、その森林を対象に調査を行い算出することは時間と経費もかかることが想定され、早急な対応は難しいと考えています。

本町としては、太陽光を活用した設備導入への補助金の拡充や、高気密・高断熱住宅や高断熱住宅に対するふながた宅建築補助金を設けており、温室効果ガスの排出を抑制するための取組みを優先したいと考えています。



令和5年2月27日
舟形町長 森 富広

県内19番目の宣言、取り組みに期待したい

【町長】 町は、今年2月に「舟形町ゼロカーボンシティ宣言」を表明し、2050年までに本町における二酸化炭素の排出量を削減し、実質ゼロにすることを宣言しました。

また、本町には約8,164haの森林があり、その森林を対象に調査を行い算出することは時間と経費もかかることが想定され、早急な対応は難しいと考えています。

本町としては、太陽光を活用した設備導入への補助金の拡充や、高気密・高断熱住宅や高断熱住宅に対するふながた宅建築補助金を設けており、温室効果ガスの排出を抑制するための取組みを優先したいと考えています。

今後の取り組みに対して、町民から理解と協力をいただけるように、環境省による本町の排出量のデータを町ホームページ等でお知らせするとともに、森林等による吸収量の数値化については、国、県及び他市町村の動向を見ながら検討したいと考えています。